

“少女”のような人のオノマトペ評価

永田麻里子・児玉好信

Onomatopoeia in a Person Like “Shoujo”

Mariko NAGATA and Yoshinobu KODAMA

The purpose of this study is to understand the nuance of a person like “shoujo”.

Nagata/Kodama (2005-2008) investigated university students as subjects till now to understand an image for “shoujo” in the modern society. Be based on the old result of research, this time we examine about the nuance of a person like “shoujo” which cannot explain in the reason. We attempt that express a person like “shoujo” by onomatopoeia, for example [kurukuru] [hirahira] [purun].

As a result:

1. 80% of subjects think the woman with the side like “shoujo” is attractive.
2. 69% of subjects want to have one side like “shoujo” in future.
3. Having one side like “shoujo” seems to affect personal relationships for better or worse.
4. Factor analysis of a person like “shoujo” image produced four factors : Watagashi, Slime, Mint, Candy.
5. The candy factor is guessed to be a stereotype factor in which the degree of interest to a person like “shoujo” is not controlled.

キーワード：shoujo 少女, nuance ニュアンス, onomatopoeia オノマトペ

I. 緒 言

近年、日本における“少女”文化が“shoujo”文化として海外輸出されるケースを見るようになった。“girl”ではなく“shoujo”と訳される点は、“少女”の捉え方が文化により異なることを示唆している。では、現代社会において“少女”はどのような位置づけにあり、私達の生活文化とどのように関わっているのだろうか。一般に、広義では「大人と子供の間」に位置する存在」とすることが多いが、その定義は曖昧で具体性に欠ける。また、未だ社会レベルの研究は知るところがない。

これまで永田・児玉(2005-2008)は、女子大生を被験者として“少女”イメージに関する調査を行い基礎的データを収集した。

“少女”のイメージ特性に関する調査(2006)や“少女”らしい行動に関する調査(2007)では、因子分析により“少女”イメージを具体化した。そして、多くの被験者が“少女”を過去の自分に投影し、どちらかというとも良いイメージで捉えていることが明らかとなった。その一方で、年齢や性別で区切ることの出来ない「“少女”のような人」を検討する必要性が浮かび上がった。

そこで“少女”のような人の容姿やイメージ

に関する調査(2007-2008)を行ったところ、「目が大きい」「童顔」「笑っている」「細身」「背が低い」「スカート・ワンピース」といった具体的な要素が自由回答より抽出された。因子分析では「活発因子」「規範因子」「自己中心因子」「幼児性因子」の4因子14項目が抽出された。さらには、“少女”のような一面を持った女性に魅力を感じている被験者や、今後“少女”のような一面を持ちたいと考えている被験者が過半数を超えていることがわかった。その背景に“少女”を「かわいい」とする記述があったことなどから、「なんとなく」「どことなく」といった全体的な雰囲気や漠然とした感覚によって“少女”のような人を分析する必要性を感じた。

以上の経緯を踏まえ、本研究では“少女”のような人のイメージをニュアンスによって捉えることを目的とし、オノマトベを用いたイメージ調査を行った。殊に日本語は擬音語や擬態語が発達した言語とされているが、オノマトベは簡素な言葉ながらモノの本質を捉えることが可能と言える。例えば「メソメソ泣く」「スタスタ歩く」など、言葉を聞いただけで自然と情景が頭に浮かぶだろう。こうした理屈では説明し切れないニュアンスに着目し、現代社会における“少女”らしさを解明したい。

Ⅱ. 方 法

2009年7月-10月、共立女子大学・短期大学に通う学生を被験者とし、講義時間中に個別記入方式の質問紙調査を実施した。有効回答数は228名で、所要時間は15-20分程であった。

質問紙の構成と解析は、以下の通りである。

これまでの調査結果を踏まえた上で“少女”のような人を表すと思われるオノマトベを67項目決定した。例えば「ひらひら」「もそもそ」「くるくる」といった二音節反復型のオノマトベを中心に、「ぶるん」「ほわほわ」「ふるふる」といった造語も取り入れた。被験者には、“少女”のような人とはどのような感じの人の

ことだと思うか、それぞれのオノマトベについて「当てはまる」「やや当てはまる」「どちらともいえない」「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の5段階評定で回答させた。

解析は、項目ごとに平均値を算出し偏りのある回答などを検討後、主因子法を用いた因子分析を行った。因子の抽出基準は固有値1.0以上とし、因子抽出後にバリマックス回転を行った。さらに、各因子に対する認識の高低を知るため、因子ごとに平均得点を算出し有意差の検定を行った。

続いて“少女”のような人に対する関心の有無や、身近に“少女”のような人がいるか否か、今後“少女”のような一面を持ちたいか否か等を回答させた。これらは必要に応じてカイ2乗検定や各因子との一元配置分散分析を行った。また、“少女”のような一面を持つことのメリットとデメリットについて自由記述させたほか、“少女”のような人のイメージを図形やイラストによって自由に表現させた。

Ⅲ. 結果と考察

3-1. “少女”のような人に対する魅力度および関心度

「“少女”のような一面を持った女性を魅力的だと思いますか」の質問に対し「そう思う」と回答した人は被験者の80%、「どちらともいえない」は15%、「そう思わない」は5%であった。

「“少女”のような人に関心がありますか」の質問に対し「関心がある」と回答した人は被験者の47%、「どちらともいえない」は37%、「関心がない」は16%であった。

魅力度・関心度を左右する要因はどこにあるのだろうか。「身近な人の中に“少女”のような人はいますか」の質問をしたところ「いる」は59%、「いない」は41%であった。そして、これらについてカイ2乗検定を行った結果、有意な関連性が認められた。身近に“少女”のような人がいる被験者の方が関心度・魅力度ともに高い数値を示した。ただし、回答に偏りがあ

“少女”のような人のオノマトペ評価

るため信頼性に欠ける点是否めず今後も検討が必要と言える。

3-2. “少女”のような一面を持つということ

3-2-1. 被験者にみる“少女”のような一面

被験者自身は“少女”のような一面を持つことを望んでいるのだろうか。

「今後“少女”のような一面を持ちたいと思いますか」の質問について回答させたところ、「持ちたい」と回答した人は69%、「どちらともいえない」は22%、「持ちたくない」は8%であった。過半数を超える被験者が“少女”のような一面を持つことに対し肯定的であるとともに、“少女”のような人が世代を超えて認められる可能性を示唆している。また、「持ちたい」とする被験者の割合が前報の結果（47%）より高い点も興味深い。

Table 1 “少女”のような一面を持つことのメリット (自由回答)

整理された記述内容	件数
かわいがられる	77
愛される・好かれる	39
かわいい・かわいらしい	30
何をしても許される	13
元気・明るい	13
純真・ピュア	10
若い	9
守られる	8
親生まれやすい	7
優しくされる	7
まわりを癒す	6
素直	6
甘えられる	4
甘やかされる	4
世話してもらえる	4
周りを笑顔にする	4
その他	51
ちやほやされる・自由 注目してもらえる など	

(有効回答数198名) 合計292件

3-2-2. メリットとデメリット

今後“少女”のような一面を持ちたいと思うか否かを左右する要因はどこにあるのだろうか。“少女”のような一面を持っているとどのような「メリット」および「デメリット」があると思うか自由記述させた。

「“少女”のような一面を持っていると、どのようなメリットがあると思いますか」に関する回答の詳細は次の通りである。被験者228名のうち有効回答数198名で具体的な記述は292件あった。これらについて整理された記述内容をTable 1に示した。

最も多く記述のあった内容は「かわいがられる」(77件)であった。続いて「愛される・好かれる」(39件)や「かわいい・かわいらしい」(30件)が多くあったほか「何をしても許される」「元気・明るい」「純真・ピュア」「若い」「守られる」といった内容があった。“少

Table 2 “少女”のような一面を持つことのデメリット (自由回答)

整理された記述内容	件数
子供扱いされる	41
子供っぽい・幼い	26
バカにされそう	21
嫌われる	19
何もできないように見られる	14
ぶりっこに見える	13
甘く見られる	12
騙されそう	9
頼りにされない	8
うっとうしい	8
特になし	8
夢見がち	5
世間知らず	5
純粹	3
その他	44
空気がよめない	
よく傷つく・考えがゆるい など	

(有効回答数191名) 合計236件

女”のような一面を持つことは、対人関係におけるメリットが大きいと言えるだろう。親近感のある“少女”のような人は、周囲の人に目を掛けてもらえるという利点があるようだ。また、快活で汚れていないという自己の内面的魅力にも影響するようだ。

「“少女”のような一面を持っていると、どのようなデメリットがあると思いますか」に関する回答の詳細は次の通りである。被験者228名のうち有効回答数191名で具体的な記述は236件あった。これらについて整理された記述内容をTable 2に示した。

最も多く記述のあった内容は「子供扱いされる」(41件)であった。続いて「子供っぽい・幼い」(26件)や「バカにされそう」(21件)、「嫌われる」(19件)が多くあった。“少女”のような一面を持つことは、どこか未成熟なイメージが伴うことがわかる。また「嫌われる」についての半数は、「同性から嫌われる」(9件)と明記しており、男性よりも女性からの視線の方が厳しく反感を買う場合もあるようだ。そのほか「何もできないように見られる」(14件)や「ぶりっこに見える」(13件)、「甘くみられる」(12件)などがあつた。メリットと同様に、対人関係におけるデメリットが大きいと言える。

3-3. “少女”のような人に対するイメージ構造 3-3-1. オノマトベにみるイメージ特性

オノマトベから成る67項目について、“少女”のような人の感じに「当てはまる」を5点、「やや当てはまる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり当てはまらない」を2点、「当てはまらない」を1点とし、各項目ごとに回答者数で除算し平均値を算出した。

その結果「ふんわり」(平均値4.27)が最も高い値を示し、続いて「すべすべ」(平均値4.21)、「るるん」(平均値4.21)が他に差を付けて高得点を示した。その反面「ぎんぎん」(平均値1.59)は最も低い値を示し、続いて「がんがん」(平均値1.60)が低得点を示した。

Table 3 “少女”のような人に対するイメージの因子分析結果

	I	II	III	IV	共通性
第I因子「わたがし」					
ふわふわ	0.80	0.25	0.10	0.16	0.73
ほわほわ	0.69	0.31	0.09	0.05	0.58
うるるん	0.64	0.31	0.16	0.05	0.53
きらきら	0.63	0.05	0.07	0.30	0.50
第II因子「スライム」					
むにゅむにゅ	0.21	0.71	0.12	0.12	0.57
ぶによぶによ	0.08	0.66	-0.01	0.26	0.51
ふにゃふにゃ	0.16	0.62	0.12	0.19	0.46
ぶよぶよ	0.36	0.61	0.11	0.11	0.53
もによもによ	0.27	0.57	0.33	-0.09	0.52
第III因子「ミント」					
つんつん	0.08	0.04	0.71	0.04	0.51
はきはき	0.07	0.04	0.64	0.17	0.45
しゃん	0.01	0.09	0.59	0.02	0.36
すうっ	0.17	0.21	0.54	-0.02	0.36
第IV因子「キャンディ」					
つやつや	0.27	0.12	0.08	0.68	0.55
びちびち	-0.04	0.16	0.00	0.56	0.34
びかびか	0.29	0.11	0.12	0.52	0.38
累積寄与率	14.90	29.77	40.85	49.16	

多くの被験者がイメージする“少女”のような人とは、柔らかく艶のある明るい感じの人であることがわかる。

次に因子分析を行ったところTable 3に示す結果が得られた。累積寄与率は49.16%で、4因子16項目が抽出された。第1因子は「ふわふわ」「ほわほわ」などの4項目から構成されており、浮遊しているような様子から「わたがし因子」と命名した。第2因子は「むにゅむにゅ」「ぶによぶによ」「ふにゃふにゃ」などの5項目から構成されており、とらえどころのない流動的な様子から「スライム因子」と命名した。

Table 4 因子平均値とSD

	平均値	SD
わたがし因子	3.89	0.95
キャンディ因子	3.61	0.94
スライム因子	3.02	0.98
ミント因子	2.30	0.85

“少女”のような人のオノマトペ評価

Table 5 “少女”のような人に対する関心の有無の平均値とSDおよび分散分析の結果

	関心がある (N=108)		どちらともいえない (N=84)		関心がない (N=36)		F値	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD		
わたがし因子	4.01	0.83	3.78	0.92	3.56	1.21	5.28	**
スライム因子	3.26	0.98	2.92	0.86	2.53	1.07	8.44	***
ミント因子	2.34	0.86	2.37	0.82	1.97	0.83	3.48	*
キャンディ因子	3.72	0.94	3.61	0.85	3.31	1.08	2.65	

* p<.05

**p<.01

***p<.001

第3因子は「つんつん」「はきはき」「しゃん」「すうっ」の4項目から構成されており、明快で爽やかな様子から「ミント因子」と命名した。第4因子は「つやつや」「びちびち」「びかびか」の3項目から構成されており、艶があり活き活きしている様子から「キャンディ因子」と命名した。また、各因子の評定得点の間には危険率0.1%で有意な差が認められた。4因子の

中で「わたがし因子」に対する認識が最も高いことがわかる (Table 4)。

3-3-2. イメージ特性と個人特性との関連

前述の結果を踏まえた上で各因子と各質問とで一元配置分散分析を行った。

“少女”のような人に対する関心の有無と各因子との分散分析では、Table 5に示す結果が



Fig.1 “少女”のような人のイメージ画 (自由表現)

得られた。「キャンディ因子」を除く3因子に有意な差が見られ、「わたがし因子」($F(2,223) = 5.277, p < .01$), 「スライム因子」($F(2,221) = 8.438, p < .001$), 「ミント因子」($F(2,225) = 3.482, p < .05$)となった。「キャンディ因子」は関心の有無に影響されない要素と言える。また、検定後の多重比較によると、「わたがし因子」「スライム因子」「ミント因子」は「関心がある」と「関心がない」の間にそれぞれ有意差があり、いずれも「関心がある」方が因子の平均値が高いことがわかった。態度のはっきりしている被験者間においては、関心を持っている人の方が浮遊しているイメージや捉えどころのない流動的なイメージ、軽快に伸びるようなイメージを持っていることがわかる。

3-3-3. イラストにみるイメージ

「少女」のような人のイメージを図形やイラストで自由に表現してみてください」としたところ、被験者の62%が何らかの形を描いた。Fig.1にその例を示す。具体的な少女像を描いたケースや、花、リボン、ハートといったものを描いたケースなど様々であった。中でも興味深い点は、人物を囲むように不規則に描かれた動植物や星のようなマークである。これらが描かれることにより、イラストに浮遊しているような様子や輝いているような様子が加えられ、より雰囲気を感じ取ることが出来る。前述したオノマトベによるイメージ特性は、このようなイラストによって記号化することが可能であるかもしれない。

IV. 総括

本研究では、オノマトベを用いることにより「少女」のような人のニュアンスを捉えることが出来た。因子分析により抽出された「わたがし因子」「スライム因子」「ミント因子」「キャンディ因子」は、「少女」のような人を知る上で1つの指標となるだろう。中でも「つやつや」「びちびち」「びかびか」の3項目から構成

される「キャンディ因子」は、「少女」のような人への関心度に左右されないステレオタイプのな要素として考えられた。

また、「少女」のような一面を持つことは良くも悪くも対人関係に影響を与えることがわかった。さらに、被験者の69%が「持ちたい」と回答したことは興味深い結果と言える。背景には、対人関係を重視し、周囲の人から可愛がられたい・愛されたいと願う心理が働いているのかもしれない。おそらく、「少女」のような人は親しまれやすい「かわいい」存在として好意的に捉えられているのだろう。

今後は被験者の枠を広げるとともに、「少女」のような人のニュアンスを視覚化することも検討したい。また、ライフスタイルにも焦点を当て、「少女」のような一面を持つことがライフスタイルとどのような影響関係にあるのか検討を進めていきたい。

参考文献

- 1) 永田麻里子・児玉好信, 「女子大生から見た“少女”のイメージ特性」, 共立女子短期大学生生活科学科紀要第49号, (2006), pp.73-78
- 2) 永田麻里子・児玉好信, 「大学生から見た“少女”らしい行動」, 共立女子短期大学生生活科学科紀要第50号, (2007), pp.39-44
- 3) 永田麻里子・児玉好信, 「女子大生が考える“少女”のような人—具体的な容姿から“かわいい”こととの関連性まで—」, 共立女子短期大学生生活科学科紀要第51号, (2008), pp.1-11
- 4) 永田麻里子・児玉好信, 「“少女”のような人のイメージ構造分析」, 共立女子短期大学生生活科学科紀要第52号, (2009), pp.29-35
- 5) 得猪外明, 「へんな言葉の通になる」, 祥伝社, (2007)